

内分泌・代謝・糖尿病内科

■診療科長 中里 雅光

■研修実施担当者 山口 秀樹

教育施設として認定を受けている学会

日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内科学会認定制度教育病院、日本甲状腺学会認定専門医施設、日本肥満学会認定肥満症専門病院

診療科の概要

内分泌・代謝・糖尿病内科は、県内唯一の大学病院の診療科として、県内の医療機関や院内から、多彩な症例を受け入れています。個々の症例で何か特徴的な症候や検査異常がないかを見つけ、文献で過去の症例を検索し、学会や論文で興味ある

所見を未来に発信することを大事にしています。総合病院の中で専門性の高い疾患のコンサルタントとして活躍する Hospitalist、開業医として地域に貢献する専門医資格を持つ Generalist の育成を目指す環境で診療を体験できます。

研修症例の特徴

初期臨床研修の到達目標で経験すべき一般的な疾患や、本邦で稀少な症例を経験します。

内分泌・代謝症例を担当することで、症例毎にオーダーメイドされた内分泌負荷試験の流れを経験します。内分泌疾患の術前・術後の症例を担当し、内分泌外科、泌尿器科、脳神経外科などとの診療間連携を経験できます。

糖尿病症例を担当することで、専門医による経口血糖降下薬の使い分け、インスリン治療の基本的な考え方を学びます。また、CDEJ（日本糖尿病療養指導士）である看護師、栄養師、薬剤師と連携し、糖尿病チーム診療の一員として患者教育に参加できます。

研修目標

【一般目標 (G10)】

医療チームの中心的役割を担う医師となるために、糖尿病、甲状腺疾患など日常診療でよく遭遇する疾患と、先端巨大症や緩徐進行1型糖尿病といった特殊な疾患や、急性副腎不全や糖尿病ケトアシドーシスなど緊急性の高い症例を幅広く経験してもらいます。診療グループの担当医として、臨床医として必要な基本的知識と手技、患者の心理・社会的問題を理解する姿勢を身につけることが目標です。

【個別行動目標 (SB0s)】

- 病歴や身体診察から、病因診断を呈示できる。
- 検診で指摘された高血糖や甲状腺腫などに対して、初期検査を組み立てることができる。
- 症例の年齢やライフスタイルを考慮した糖尿病治療を実践できる。
- 甲状腺の触診とエコーを実践し、所見から鑑別疾患を列挙できる。
- 自己血糖測定や持続血糖モニタリング (CGM) の情報から、血糖管理ができる。
- 静脈採血、血管確保、動脈採血などの基本手技が施行できる。
- プロブレムリストを明確にした診療録を、正確に遅滞なく記載できる。
- 担当した症例をまとめ、カンファレンスや学会でプレゼンテーションできる。

- 文献検索を行い、科学的根拠に基づいた総合判断ができる。
- 患者や家族の心理を理解し、患者の社会的問題を解決できる。
- コメディカルと協調し、適切なタイミングで医療スタッフに指示することができる。

研修方略

【指導医および指導体制】

研修医1人に対し3~4人の入院患者を、受持研修医として担当します。主治医である専攻医と一緒に症例を診療し、専門医による指導を直接受けることができます。

週1回のカンファレンスを通して、担当症例のより深い理解、問題点のリスト化、EBMに基づいた治療方針決定、プレゼンテーションスキルを学びます。

【勉強会やカンファレンスなどの研修教育活動】

カンファレンス時に論文抄読会が行われ、輪番制で月1回発表してもらいます。批判的な論文の読み方や、論文作成時のポイントなどを上級医が指導します。

診療の質やプレゼンテーションスキルの向上のため、学会や研究会での症例発表を推奨しています。

【週間スケジュール】

	午前	午後
月曜日	外来	病棟診療
火曜日	総回診	カンファレンス、抄読会
水曜日	病棟診療（負荷試験など）、外来	病棟診療、糖尿病教室
木曜日	病棟診療（負荷試験など）	病棟診療
金曜日	外来	病棟診療

研修評価

オンライン卒後臨床研修評価システム（EPOC）による研修実施内容の評価（観察記録）が行われます。

指導医・先輩医師からのメッセージ

内分泌・代謝・糖尿病内科は、疾患がなぜ（Why）発症したのか、いかにして（How）高血糖や慢性合併症を管理するのか、この二つの軸で個々の症例に向き合う診療科です。慢性疾患を中心とした診療科であるため、子育て・介護などと両立しやすい診療科です。内分泌・糖尿病はホルモンを対象とする学問であるため、症例でのホルモン動態を目の当たりにすることができ、基礎研究に近い分野です。内分泌診療の醍醐味、糖尿病診療の奥深さを同時に体験できる当科での研修をお勧めします。（教育責任者 山口 秀樹）